

ロルフ・ヘッカー (Rolf Hecker) 教授紹介

窪 俊 一 (東北大学大学院情報科学研究科准教授)

ロルフ・ヘッカー先生は、1953年6月7日、旧東独のライプチヒにお生まれになり、その後モスクワ大学で政治経済学を学ばれ、1981年にモスクワ大学で博士号を取得されています。そして1989年にはベルリンのマルクス・レーニン主義研究所の労働運動史の教授に就任されました。

現在、先生は1990年につくられた「社団法人 ベルリン MEGA 編集促進協会」(Berliner Verein zur Förderung der MEGA-Edition) の理事長をされています。この協会は、マルクス・エンゲルス研究の重要な論集である“Beiträge zur Marx-Engels-Forschung”を刊行している協会であると同時に、若手のマルクス研究者育成のために「リャザーノフ賞」という賞を設けています。この賞の受賞者には、東北大学の若手研究者も含まれています。また、ヘッカー氏は、ベルリンのローザ・ルクセンブルク基金の事務局を取り仕切っていらっしゃる方でもあります。

ヘッカー先生は、MEGAを編集出版している国際マルクス・エンゲルス財団(ベルリン・ブランデンブルク科学アカデミー(BBAW))の客員研究員であり、既に1980年からMEGAの編集に携わっておられます。東北大学の太田教授が中心となって編集されたMEGAが既に2巻刊行されていますが、ヘッカー先生はこれらの編集・出版に協力されています。このようなご経歴でもお分かりのように、先生は現在のマルクス主義研究の第一線で活躍しておられる研究者です。

ヘッカー先生は、現在北京に滞在中で、昨年から年に3カ月程度、中国共産党の中央編訳局で講義等の仕事をなされています。先生はまた毎年のように来日されており、そのたびごとに仙台にも滞在されていますので、服部文男先生をよくご存じです。ヘッカー先生は、服部先生を非常に敬愛しておられまして、何とか本日のシンポジウムにも来たいとおっしゃっていたのですが、仕事の関係でどうしても北京を離れられないということですのでメッセージをいただきました。

※ ※ ※ ※

ロルフ・ヘッカー先生の書簡を翻訳してご紹介いただくのは、尚綱学院大学総合人間科学部人間心理学科准教授、今井誠二先生です。今井先生は、東京外国語大学ご卒業後、西南学院大学神学部、東京大学大学院で学ばれ、ドイツのアウグスターナ大学に留学ののち、1997年から尚綱学院大学にお勤めです。今井先生は、新約聖書学がご専門ですが、学外ではホームレスの方々の支援をしているNPO仙台夜まわりグループの理事長もなさっていらっしゃいます。

※ ※ ※ ※

私は、東北大学で情報科学研究科に属しており、経済学とは無縁だったのですが、ひょんなことから服部文男先生と知り合いになりました。1996年から当時の科学技術庁のプロジェクトで情報弱者の中高年の方々にインターネットやメールを使っていただき調査・研究をするというものがありました。その時の中高年のモニターの一人が服部先生でした。それ以来、服

部先生はパソコンで原稿やメールを書かれ、病床からも亡くなる直前までメールをいただきました。先生からはいつも簡潔ながらも丁寧なお返事をすぐにいただき、筆不精の私にとっては、正にお手本のような先生でした。服部文男先生が亡くなられた後、先生の御遺稿を調べるために、パソコンを見せていただきました。予想通りフォルダにきちんと整理されていました。先生はお亡くなりになるまで飽くなき探究心をお持ちで、それも史料・文献を丹念にお調べになり、お話しくださる方でした。ちょうど先生の肺がんが見つかった2005年頃だと思いますが、世界中の『共産党宣言』の刊本の表紙を集めるというプロジェクトをやっておりました。服部先生にもお願いして、『共産党宣言』をめぐるいろいろな思い出などをお話しいただきました。その時も、先生は私たちのためにきちんと原稿をご用意しておられたことを思い出します。最後に先生とよくお話ししていたテーマに「(神の)見えざる手」のメタファーの歴史があります。アダム・スミスの言葉として有名ですが、先生亡き後、私に残された研究テーマとなりました。

二つの服部文庫

大 村 泉（東北大学大学院経済学研究科教授）

服部文男先生が長逝されてから、もうすぐまる5年になる。本年（2012年）10月13日、尚絅学院大学で「服部英太郎・文男遺文庫」開設のシンポジウムが開催され、いよいよ両先生の遺文庫が一般公開されることになった。この場をお借りし、改めて、遺文庫の開設にご尽力頂いた、佐々木公明学長、上西義昭常務理事（当時）、図書館長阿留多伎真人教授（当時）、そして目録作成等、実務作業に尽力された図書館職員諸氏に、心より感謝の意を表する。

本年初に、佐々木学長から、シンポジウムの開催に協力を要請され、パネリストの選任や日程調整に関わった。私もパネリストに加わるようになっていたが、今年は、家族の大病・入院が相次ぎ、私自身も3月末に痛めた椎間板ヘルニアが半年経っても治癒せず、9月に東北労災病院で手術することになり、パネリストはむろん聴衆としてシンポジウムに出席することもできなかった。シンポジウム後、佐々木学長から、記念誌に寄稿依頼を受けたので本遺文庫の開設経緯について述べようと思う。タイトルを「二つの服部文庫」としたのは、この機会に、尚絅学院大学図書館には収蔵されず、清華大学図書館（中国・北京）に収蔵されることになった文男先生の遺文庫も紹介しようと考えたからである。

2007年12月30日に服部文男先生が亡くなられた。先生の訃報を受けたのは、ご遺族の間で葬儀が済んだ翌年初めではなかったかと記憶する。弔問した際、ご遺族から、文男先生の遺文庫の処理を、私と黒滝正昭氏（宮城学院女子大学名誉教授）、大和田寛氏（仙台大学教授）を中心に門下生があたることを要請された。その後、ご遺族の希望は、これらの遺文庫を散逸させずまとまった形で保管することにあることが確認されたので、なるべくこのご希望に沿うような受け入れ先を見出そうと云うことが門下生の間で申し合わされた。他方、遺文庫をサンプリングし、暫定目録を作成しておかないと、話を具体的に進めることは困難であった。そこで、2008年夏から翌春にかけて、両先生の遺文庫の内、5000冊余の暫定目録を作成すること